

令和3年度奈良市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会の概要	
開催日時	令和4年1月31日（月）午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	奈良市役所 中央棟 3F会議室
意見等を求める内容等	1. 総合戦略関連事業の評価について 2. 次期総合戦略策定について 3. その他
参加者	出席者5人
開催形態	公開（傍聴人0人）
担当課	総合政策部 総合政策課
意見等の内容の取り纏め	
1. 総合戦略関連事業の評価について	
<p>令和2年度に実施した総合戦略関連事業について事前質問の他、追加の質問及び意見を求めた。</p> <p>藤沢氏</p> <p>観光、乳児の全戸訪問、スポーツ、文化活動支援など、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」）による影響で、取り組み方を変更したものはあるか。また、コロナの影響により、病児保育の利用児童数が少なくなったと思うが、利用しなかった家庭において、問題は起きていないか。</p> <p>審議会・委員会などの女性登用率が達成できない理由は何か。奈良市ベンチャーエコシステム推進事業について、創業者の年齢・性別の分布や業種、規模感の特徴はどうか。</p> <p>観光経済部</p> <p>コロナによる観光関係の対応については、観光案内所の無人化、修学旅行に関する感染症対策への事業補助、サイクルツーリズムの推進、観光コンテンツ醸成事業の募集等を実施した。</p> <p>奈良市ベンチャーエコシステム推進事業について、ベンチャーエコシステムの主な取組である奈良スタープロジェクトの参加者（全23名）の属性等としては、年齢層は20代～30代が主で、18名が男性、5名が女性。業種としては小売業、飲食業、製造業、IT関係、福祉サービス等が多く、年商が1億円を超える企業も数社含まれる。</p> <p>事務局</p> <p>子ども未来部に代わり回答すると、乳児家庭への全戸訪問については、対面を希望されない家庭に対しては、電話による聞き取りや資料の送付等により代替措置を取っている。</p>	

また、病児保育園において利用者数が減少している原因としては、コロナ拡大が原因と思われる。感染拡大当初においては、発熱・のどの痛み・鼻水等の風邪症状がある児童であってコロナでないことが確定できない場合は、利用を受付けないという運用をとっていた園もあるが、病児保育園自体を休園という取扱いをしている園はない。現在は、発熱等の症状があっても、検査キットにより陰性が確認できれば預けることができる。利用しなかった家庭においては、在宅勤務の増加により家庭で看護できる環境があること等により、家庭保育にご協力いただいているものと考えている。

市民部

審議会等の女性登用率について、2つの協議会で特に参加率が低下したことが、指標の数値に大きな影響を与えていると考える。これらの協議会については、コロナ対策の一環として評議会の参加者を大幅に減らした際、役職付きの男性構成員が残る場合が多く、相対的に女性の割合が減ってしまったことが直接の要因である。

コロナによる対応としては、100年会館やならまちセンター、中央体育館等にギガネットケーブルを敷設し、WEBを通じた動画配信や中継ができる環境の整備を行った。

2. 次期総合戦略策定について

次期総合戦略の計画構成や各項目について、質問及び意見を求めた。

藤沢氏

重点項目3分野はとても良いと思うが、重点項目の進捗を適正に評価する指標が必要ではないか。また、基本目標の指標についてもなるべくアウトカム型の指標設定ができれば理想的である。

事務局

指標についてこういった性質のものを設定すれば適切か悩ましいところではあるが、今回、基本目標以下の指標については、総合計画の策定の議論などと連動することもあることから、今回お示ししている形を案として進めていければと考えている。一方で、重点項目に対する指標については今後（来年度以降）の課題として対応を検討していきたい。

樫村氏

KGIとして掲げている社会増減は全年齢だけでなく、年齢層で区分した指標も含まれており、前回からの改善点として評価できる一方、合計特殊出生率は社会情勢等、様々な要因によって変化するものであり、自治体がコントロールするのはかなり難しい印象がある。若年層の人口流入等、市としてコントロールしやすい指標にする方が良いのではないかと考える。

市長

合計特殊出生率の算定方法の構図として、奈良市内で出産した人が増加しないと出生率が上がらない仕組みになっている。市外で出産し、住宅購入等のタイミングで市内に転入する方がいた場合、分母となる女性人口は増加する一方で、分子である出生数は上がらないため、結果的に合計特殊出生率が低下するというジレンマをはらむ。ご指摘のとおり、合計特殊出生率は市としてコントロールが難しい指標であるため、本指標については再検討する必要があると考える。

下山氏

重点項目分野の選定や、転入に関わる子育て世代に着目した KGI は評価できる。一方で、ベッドタウンから変わりつつある今後のあり方なども考える必要がある。奈良市は、人々がまちに求める機能・特徴を備えており、人が来るニーズは高まっているなかで、他都市に競り負けないよう、東京や大阪から転出する人口の需要をどう取り込み、兵庫や京都にどのように競り勝つかも分析しながら考えてもらいたい。

また、オープンデータは、複数年分公開して経年変化を追えるようにし、民間が利活用できるようなデータづくりを意識してほしい。

山本氏

コロナの拡大により、精神的に滅入っている市民の方が増加していると思慮するが、重点項目 2・3 に取り組んでいく上では、重要なステークホルダーである市民の精神面のケアも重要となる。精神的な豊かさは文化・伝統・芸術とつながりがあるとされていることから、奈良市の持つ歴史的資源を上手く活用することで、よりよい結果が得られると思うし、万博にもコミットしやすいのではないかと。

伊藤氏

新たな時代の流れや世界的課題への対応も掲げられているが、デジタル化については、誰のためのデジタル化なのか、ユーザーエクスペリエンス（利用者の印象や体験）を意識して取り組むことが重要。

下山氏

企業の生産性向上や市民の利便性向上を意識して DX に取り組むこと。DX の推進にあたっては、ハコモノに対する IT 投資と、IT 人材の育成の 2 側面からのアプローチがあるとされている。特に後者の IT 人材の育成は重要であり、奈良市においても行政職員の IT スキルの教育が必須。具体的な施策に落とし込んで進めてほしい。

また、多様な主体との関わりについて、市民のシビックプライドを醸成し、市民が自慢できるようなまちづくりを心掛けることが重要。まちのブランド力が上昇すれば企業側にとっても連携したくなるまちとなる。

藤沢氏

デジタル化の推進はインフラの整備とも言え、行政職員の教育と合わせて市民への教育も必要。デジタルを怖がらない人、デジタルに違和感を持たない人を増やす、ということが前提として必要ではないか。

伊藤氏

アナログはアナログで良い面もあるので、デジタルとアナログのバランスも意識して取り組んでほしい。

CIO

市の DX の方向性に関して補足すると、DX の推進にあたっては、デジタイゼーション（アナログツールをデジタルに変更すること）とデジタルイゼーション（デジタル化により仕事の手法を根本的に見直すこと）の2つの概念が存在し、奈良市で推進していく DX は後者のデジタルイゼーションである。例えば、デジタル化によって窓口をワンストップ化し市民の利便性を向上させることや、人口に伴い職員も減少していくなか、デジタル化によって市民サービスを維持し、本当に人が必要な場面に職員を配置する等、市民目線でのデジタル化を進めていく予定である。

3. その他（万博について）

樫村氏

万博を使って終わるのではなく、開催後にも残るレガシーを意識することが重要。注目している技術の一例として、空飛ぶ車が挙げられる。奈良県南部をはじめ、大阪等の都市部から直線距離は短いにも関わらず、交通網等の事情によりアクセスが悪い地域が多数ある。こういった地域の課題を新しいモビリティで克服することで、観光振興に繋がる。

下山氏

日本の原風景としての奈良の文化価値を上げることが重要で、シビックプライドの醸成が必要。

ワールドマスターズゲームズ（4年に1度開催される中高年齢者のための世界規模の国際総合競技大会）も今後関西で開催予定である。海外への情報の伝わり方をデータとして蓄積し、万博に活用すること。

山本氏

バーチャル奈良市を披露する場として万博を活用し、リアルのまちづくりと連動させるのはどうか。オンラインの利点を生かし、奈良市民だけでなく海外を含めた様々な人たちと協力してまちづくりを構想するのが良い。手法としては奈良の伝統産業やアート、文化を用いて表現していくこと。

藤沢氏

メタバース等の取組を進めていく上では、バーチャルでのボランティアの協力が重要となる。大学等の学術機関と連携して、奈良市からバーチャルのボランティアが多く輩出されるようインフラの整備を行うこと。また、今回の万博参加者の行動や履歴等はアプリを通じてトラッキングできるはずなので、奈良市のコンテンツに対する参加者の反応を今後の観光施策に生かすように。

伊藤氏

歴史的資源をはじめ、奈良には魅力的なコンテンツが多数存在する。これらに関西全域で連携してどのように世界に対して価値を示していくか。知られていない魅力についてはどのように魅力を明示化していくかを検討して行ってほしい。

市長

奈良の魅力が一番魅力的に見える見せ方、伝え方にも工夫をしていきたい。例えば、文化・自然・アートとテクノロジーを融合させ、新たなチャレンジが生まれるよう工夫することで、時代の変化や新たなステージに進む様子を広く世界の人々に理解してもらう機会としても万博は使い道がある。この大きなチャンスを有効に活かしていきたい。

以上